

## 第4章 地震発生時の対応

### 1. 地震発生時の心得

(1) 地震が発生した瞬間の対応（まずは自分の身を守る！）

- a. 窓や棚のように、ガラスが割れたり中のものが飛び出しそうな場所から離れる。
- b. 頑丈な机やテーブルの下に身を隠し、落下物や転倒物から身を守る。なお、身動きすることも不自由となるような非常に強い揺れが起こった場合は、体を丸め、手で頭を保護する。
- c. 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開けて出口の確保をする。
- d. あわてて外に飛び出さない。
- e. エレベータの中にいる場合、全ての階のボタンを押し、停止した階で降りる。閉じ込められたら、非常ボタンを押して救助を待つ。
- f. 広場やグランドなど、落下物が無い場所にいる場合は、その場で座りこみ、揺れが収まるのを待つ。

(2) 火の始末

火災の発生を防ぐため、使用中の火を消し、ガスの元栓を閉める。また、電気器具のプラグをコンセントから抜き、ブレーカーを切る。

(3) 火災の発生

万一火災が発生した場合は、「第2章 1. 出火時の心得」に従って行動する。ただし、電話がつかない、消防車が来ない、あるいは断水する等日頃とは異なる事態が発生する可能性があるため、天井着火し、初期消火できないと判断されたときは、速やかに避難する。

(4) 避難

揺れが収まっても、あわてて外へ飛び出さない。耐震性のある建物では、急には倒壊に至らないので落ちついて行動し、落下物、転倒物等を確認しながら避難する。（工学部学舎最寄りの避難場所：工学会館（セブンイレブン）西側の広場）

なお、普段から非常口、避難経路及び避難場所を確認しておくとともに、夜間に停電となった場合は、暗いので歩行に困難をきたす恐れがあるので、日頃から懐中電灯等の非常用照明器具の位置及び電池切れがないか確認しておく。

(5) 安全確認

屋内には落下物、転倒物等で身動きできない人がいる可能性があるため、避難時には可能な限り、それらを確認する。救助が必要な場合は、応援を頼む。ただし、焦って無謀な行動をとってはならない。

### 2. 地震発生後の対応（地震発生から1日経過）

地震が発生したことにより、学舎・施設等に被害が出たと予想される場合は、互いに協力して、次に掲げる措置をとるものとする。

- (1) 学舎・屋内施設の被害状況を確認する。
- (2) 余震に備え、建物屋内施設等の安全対策を施す。
- (3) 学内施設が避難所となっている場合、施設管理に必要な職員の確保と、避難民に対する施

設利用の必要な指示を行う。

### 3. 応急復旧（1日経過から7日経過まで）

地震が発生したことにより、甚大な被害が出たと予想されるときは、互いに協力して、次に掲げる措置をとるものとする。

（1）教職員、学生の安全確認を行う。

（2）学生は、自己及び友人の安否について、速やかに大学へ連絡すること。

※各人、安否情報システム「ANPIC」にて、確認のメールが届き次第対応すること。

ネットワークが使えない場合や、特別な連絡事項等がある場合は、下記に連絡する。

大学の電話番号 （078）803-6350（教務学生係直通）

大学の Fax 番号 （078）803-6396（工学研究科事務室）

（3）学舎・屋内施設の被災状況を把握し、関係各機関と連携をとる。

（4）応急教育計画をたてるとともに、授業再開日の決定及びその連絡を行う。

（5）教育施設及び備品の滅失状況の調査及びその供給を行う。

（6）避難生活が長期化している場合は、応急教育活動と避難生活との調整について関係各機関と連携をとる。